行政経営評価（施策評価）

ライフステージの視点（生活と時間）	４．老いる・逝く	「高齢者福祉」を【老いる・逝くライフステージ】に該当する分野と捉えます。

施策分野	目指すべき姿
４－①　高齢者福祉	地域で支え合いながら、高齢者誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるまち

■まちづくりの視点

市民の視点	地域ぐるみで高齢者を支援する
行政の視点	地域包括ケアシステムの構築に取り組む
協働の視点	その人なりの老い方や最後の迎え方を考えていくことができる

■成果指標と現状

指標名（対象分野）	計画策定時（基準年度）	３年後（2021年度目標値）	５年後（2023年度目標値）	現状（最新）	１０年後（2028年度目標値）
①　要介護３以上の認定率（　高齢者福祉　）	6.4%（2017年度末）	6.7%	6.6%	6.5%（2023年度）	6.4%
②　要支援・要介護認定率（　高齢者福祉　）	17.4%（2017年度末）	18.4%	18.7%	17.9%（2023年度）	17.4%
③　銚子プラチナ体操取組数（　高齢者福祉　）	23団体／282人（2017年度末）	60団体／600人	80団体／800人	52団体／582人（2023年度）	130団体／1,300人
④　認知症サポーター養成講座受講者数（　高齢者福祉　）	4,579人（2017年度末）	5,300人	5,500人	6,550人（2023年度）	6,000人
⑤　個別地域ケア会議開催回数（　高齢者福祉　）	31回（2017年度）	34回	37回	38回（2023年度）	40回

成果指標と現状の分析
要支援・要介護認定率は前年度（2022年度）と比較し増加しているものの、要介護３以上の認定率は減少傾向が続いている。介護予防と重症化予防を推進することが重要であり、75歳以上の後期高齢者については、高齢者の保健事業と介護予防を一体的に実施することができた。 銚子プラチナ体操取組数は、目標値を下回ったものの、取組団体の努力により着実に取組が広がっている。参加者のモチベーションアップに資するよう、運動負荷を上げた運動プログラム「プラチナ体操プラス」を活動団体の要望に応じて紹介した。日常生活圏域ごとの交流会を開催するなど、意図的な働きかけを委託型地域包括支援センターや地域のリハビリ専門職と協働して行った。 認知症サポーター養成講座受講者数は、地域包括支援センターによる継続的な取組により、順調に推移している。小学校や中学校、大学でも講座を開催し、若い世代での認知症サポーターを養成できた。